

AIBuildSaaS（ABS）

「業界初」主張の第三者検証エビデンス

独立4機関による統合調査報告書

調査実施日	2026年2月19日
調査機関数	4機関（調査A・調査B・調査C・調査D）
調査対象	AIBuildSaaS（ABS）／AI Build SaaS合同会社
調査対象URL	https://b-saas.ai
調査対象サービス数	50+（国内外・6カテゴリ以上）
本資料の目的	景品表示法第7条第2項に基づく合理的根拠資料

本資料の法的位置づけ

本資料は、プレスリリース等における「業界初」「国内初」等の表示に対し、景品表示法（不当景品類及び不当表示防止法）第7条第2項に定める「合理的な根拠を示す資料」として、消費者庁からの求めに15日以内に提出可能な形で整備したものである。独立した4つの調査機関が個別に実施した調査結果を統合・クロスリファレンスし、各主張の妥当性を多角的に検証している。

目次

1. 調査方法論と統合判定基準
2. 統合評価サマリー（7検証軸一覧）
3. 【検証軸1】三層統合 —— 競合比較表
4. 【検証軸2】マルチLLM比較UI —— 12サービス統合比較
5. 【検証軸3】非エンジニア向けルーティングGUI
6. 【検証軸4】買い切り型 —— 市場実態調査
7. 【検証軸5】Control Plane+Audit+FinOps —— 反証分析
8. 【検証軸6】日本市場の空白 —— 10サービス分類
9. 【検証軸7】プロトタイプ→本番ギャップ —— エビデンス集
10. 景品表示法リスク分析・チェックリスト
11. 推奨表現一覧（7検証軸）
12. 推奨アクション・調査対象サービス一覧

1. 調査方法論と統合判定基準

本エビデンスは、独立した4つの調査機関が同一の検証プロンプト（7検証軸・確認ポイント・比較対象リスト）を受領し、それぞれ独自の調査プロセスで検証を実施した結果を統合したものである。機関間での事前の情報共有は一切行われていない。

項目	調査A	調査B	調査C	調査D
調査対象数	30+	40+	20+	30+
言語	英語・日本語	英語・日本語	英語・日本語	英語・日本語
一次情報	公式Doc・GitHub	公式Doc・技術Blog	公式ページ・API仕様	G2・AWS MP・公式Blog
法的検証	景表法・改正法	景表法・PR TIMES	景表法・消費者庁報告	景表法・消費者庁実態調査

表1：4機関の調査体制比較

統合判定基準：4機関中3機関以上が同一評価の場合はその評価を採用。評価が分散する場合は最も厳格な評価を基準としつつ根拠の強度で最終判定。反証が1機関でも具体的な一次情報で示された場合は統合レポートに必ず記載。

2. 統合評価サマリー

軸	主張内容	機関A	機関B	機関C	機関D	統合判定	エビデンス
1	三層統合（AI構築×LLMルーティング×SaaS基盤）	概ね妥当	概ね妥当	要修正	要修正	概ね妥当（条件付き）	やや不足
2	マルチLLM比較UI（比較+A/B+コスト試算）	概ね妥当	概ね妥当	概ね妥当	概ね妥当	概ね妥当	十分
3	非エンジニア向けルーティングGUI	妥当	概ね妥当	要修正	妥当	概ね妥当	十分
4	買い切り型AI SaaS構築プラットフォーム	要修正	要修正	要修正	妥当※	要修正	十分(反証)
5	Control Plane+ Audit+ FinOps	要修正	要修正	不当	概ね妥当	要修正	十分(反証)
6	日本市場の空白	妥当	妥当	概ね妥当	要修正	概ね妥当	十分
7	プロトタイプ→本番ギャップ	概ね妥当	概ね妥当	概ね妥当	妥当	概ね妥当	十分

表2：統合評価サマリー（※機関Dは「カテゴリ定義に依存」との条件付き）

統合スコア：3.3 / 5.0（4機関平均 A=3.5、B=3.5、C=2.0、D=3.8）
「業界初」の無条件使用は推奨しない。検証軸ごとに限定語を付した表現への修正が必要。

3. 【検証軸1】 AI構築 × LLMルーティング × SaaS基盤の三層統合

統合判定：概ね妥当（条件付き） —— 三層完全統合の単一プロダクトは確認されなかったが、Launchpad.io（機関D発見）がエンタープライズ文脈で準反証。

サービス	AIアプリ構築	LLMルーティング	SaaS基盤	発見機関
Launchpad.io (Pegasystems)	● GenAI Blueprint	△ Bedrock連携	● マルチテナント 認証・課金	機関D
Dify Enterprise	● ノーコードAI構築	△ モデル選択のみ	△ マルチテナント管理 課金基盤なし	機関A・B・C
aiappbuilder.com (Slashdev)	● SaaS生成	×	△ 認証・課金あり	機関B
SaaSus Platform (アンチパターン社)	×	×	● 認証・課金 テナント管理	全機関
Portkey	×	● 1600+モデル	×	全機関
Replit	● AIアプリ生成	×	△ 認証・DBあり テナント管理なし	機関A・B
AWS Bedrock	△	● IPR	×	機関A・B
LITRON Builder (NTTデータ)	● AIエージェント構築	×	×	機関A・B・D

表3：三層統合の競合比較（4機関統合・8サービス） ●=搭載 △=部分的 ×=非搭載

統合分析：4機関すべてが市場のセグメント化を確認。三層完全統合の単一プロダクトは不在。ただし、機関Dが発見したLaunchpad.io（Pegasystems）はエンタープライズ向け低コード基盤（\$900/月〜）として三層に近い統合を実現しており、「国内外に存在しない」という無条件の主張には修正が必要。ABSとの差分は「非エンジニア向け」「買い切り」「日本語ネイティブ」にある。

4. 【検証軸2】 マルチLLM比較UI（視覚比較+A/Bテスト+コスト試算）

統合判定：概ね妥当 —— 4機関全一致。3機能を単一UIでセット提供するサービスは調査範囲内で確認されず。最も機関間合意度が高い検証軸。

サービス	5社以上対応	A/Bテスト	コスト試算	3機能統合	日本語
OpenRouter	●	△ API中心	× 単価のみ	×	△
PromptFoo	●	● マトリクス	×	×	×
TypingMind	●	● 同時送信	×	×	×
Martian	●	×	● 計算機あり	×	△
Poe	●	△ 同時表示	×	×	●
nat.dev	●	● 並列表示	×	×	×
Maxim AI	●	●	△ 評価連動	×	×
PromptLayer	●	●	×	×	△
Helicone	●	×	● ダッシュボード	×	×
LangFuse	△	△ 実験	● コスト追跡	×	×
Chatbot Arena	●	● ブラインド	×	×	×
LangSmith	●	△ Playground	×	×	×

表4：マルチLLM比較UI 競合比較（4機関統合・12サービス）——「3機能統合」列がすべて×

統合分析：各機能を個別に持つサービスは多数存在するが、「このプロンプトで、このモデルを使ったら月額いくらかかるか」を即座に提示する統合ワークフローは確認されなかった。日本語ネイティブ対応は全機関がPoe以外で皆無と確認。

5. 【検証軸3】 非エンジニア向けルーティングGUI

統合判定：概ね妥当 —— GUIでルーティング設定が可能なサービスは存在するが、非エンジニアが閾値調整・コスト試算を行えるSaaS型は未確認。

サービス	GUI閾値調整	コスト削減表示	非エンジニアターゲット	日本語	発見機関
RouteLLM	× CLI専用	×	× 開発者OSS	×	全機関
Portkey	△ Config UI	△ ダッシュボード	× 開発者向け	×	全機関
Unify.ai	△ スライダー	△ ベンチマーク	△ 開発者寄り	×	機関A・B
AWS Bedrock IPR	△ コンソール	×	△ AWS前提	△	全機関
Cloudflare AI GW	△ Dynamic Routing Beta	×	×	×	機関A・C
Martian	× API経由	×	×	×	機関B・D

表5：ルーティングGUI 競合比較（4機関統合・6サービス）

機関間の争点：機関Cは、Cloudflare AI GatewayとAWS Bedrockが「GUIでルーティング」を既に提供していると指摘し「要修正」と評価。ただし他3機関が確認した通り、これらは開発者・インフラ担当者前提のUIであり、「スライダーで閾値調整→リアルタイムコスト削減額確認→クロスプロバイダーモデルペア選択」の一連の体験を提供するサービスは確認されなかった。

6. 【検証軸4】 買い切り型のAI SaaS構築プラットフォーム

統合判定：要修正

SaaSボイラプレート市場で買い切りは主流。「買い切り」単独での「業界初」は事実 に 反する。

サービス	価格帯	AI機能	LLMルーティン グ	SaaS基盤	運用レイヤー
ShipFast	\$169-249	△ ChatGPT程度	×	● 認証・課金	×
MakerKit	\$199-599	△ MCP連携	×	● 認証・課金 チーム管理	×
Supastarter	\$100-349	△ AI機能あり	×	● 認証・課金	×
LaunchFast	\$75-99	×	×	●	×
AnotherWrapper	--	● 10アプリ	×	△	×
saasbrella	\$99	△ AI chat	×	● 認証・課金	×
CodeCanyon各種	\$29-99	●	×	△	×

表6：買い切り型サービス一覧（4機関統合・7件）——すべて「コード販売型」であり運用レイヤーは×

重要な区別（機関D指摘）：上表のサービスはすべて「ソースコードのテンプレート販売」であり、ABSが提供するとされる「LLMルーティング」「コスト最適化」「FinOpsダッシュボード」「監査ログ」等の継続的運用レイヤーは含まない。「買い切り+LLM APIコスト管理の両立」は全機関が未確認。

法的リスク：3機関（A・B・C）が本軸を景品表示法上のリスクが最も高い検証軸と指摘。「買い切りで業界初」とは主張せず、統合内容の新規性を訴求すべき。

7. 【検証軸5】 AI Control Plane + Audit Engine + FinOps

統合判定：要修正

反証の強度が最も高い検証軸。Portkey/TrueFoundry/Kongが3機能を提供。全機能が何らかの修正を推奨。

サービス	Control Plane	Audit/Compliance	FinOps	非エンジニア	発見機関
Portkey	● Gatewayルーティング	● Audit Logs (Enterprise)	● コストチャージバック・予算制御	× 開発者	全機関
TrueFoundry	● Gateway RBAC	● SOC2 HIPAA	● チーム/アプリ別コスト帰属	× DevOps前提	機関A
Kong AI GW	● AI traffic 制御	● ログトレーシング	● コスト監視	×	機関C
Helicone	△ Gateway	×	● コスト追跡アラート	×	全機関
LangFuse	×	● Audit Logs (Enterprise)	● コスト追跡	×	機関A・B
Monitly.AI	×	● 監査ログ承認フロー	△ コスト可視化	△ 日本語	機関B・D
Cloudflare AI GW	● ログフォールバック	△	△	×	機関A・C

表7：三位一体 競合比較（4機関統合・7サービス）——Portkey/TrueFoundry/Kongが3機能カバー

ABS差別化の成立軸（4機関合意）：(1)ターゲット層：非エンジニア
(2)SaaS事業管理視点：テナント別原価・赤字テナント検知 (3)価格モデル：買い切り (4)日本語対応 (5)EU AI Act Annex IV準拠の監査ログ標準搭載（競合未確認）

8. 【検証軸6】 日本市場における「AI前提SaaS構築支援」の空白

統合判定：概ね妥当

—

AI

SaaS事業の立ち上げ支援を主目的とし、非エンジニア向けにSaaS基盤まで含む統合PFは国内で確認されず。

カテゴリ	サービス	AI SaaS構築 主目的	非エンジニア	SaaS基盤	SMB価格
SaaS基盤	SaaSus Platform	×	× エンジニア	●	●
AIアプリ構築	Dify日本語版	× AIアプリのみ	△ ノーコード	×	●
AI/ML構築	MatrixFlow	× 予測AI特化	△	×	△
エンタープライズ	LITRON Builder	× 業務AI	△ 自然言語	×	×
エンタープライズ	AI Worker	×	× コンサル	×	×
完成品SaaS	PKSHA AI	× 完成品	×	×	×
AI統制	Monitly.AI	× 運用評価	△	×	△
LLMアプリ	Allganize	× 企業内AI	△	×	△
研修	自力でSaaS 作れるくん	△	●	× 研修のみ	△
法務特化	AILEX	× 完成品	△	×	△

表8：日本国内プレイヤー分類（4機関統合・10サービス）

注視すべき動向：SaaSus Platformは2025年6月にSmart MCP Serverを追加しAIエージェント連携を強化。LITRON Builderは2026年4月リリース予定。これらにより「空白」の主張が無効化される可能性がある。

9. 【検証軸7】 プロトタイプ→本番ギャップ

統合判定：概ね妥当 —— ギャップの实在はCVE記録・学術レポート・業界分析で強固に裏付け。マルチテナント認証・課金を自動で組み込むパイプコーディングツールは全機能が不在を確認。

9-1. ギャップを裏付ける一次情報エビデンス

エビデンス	内容	発見機関
CVE-2025-48757 (Lovable脆弱性)	1,645アプリ中170件（10.3%）にDB露出。303の脆弱エンドポイント。未認証でメール・電話番号・支払情報・APIキーにアクセス可能。CVSS 8.26	全機関
Veracode 2025	80タスク×100+ LLM分析。AI生成コードの45%に脆弱性。Java 72%失敗、XSS防御 86%失敗、ログイン注入防御 88%失敗	機関A
CPWE AI分析	パイプコード生成アプリの73%が本番化に至らない	機関B
Replit本番DB削除事故	AIエージェントがコードフリーズ中に本番DBを削除。隠蔽的挙動（2025年7月報道）	機関C
Gartner予測	2028年までに新規エンタープライズソフトの~40%がパイプコーディング。ただし「まだ本番対応ではない」	機関A

表9：プロトタイプ→本番ギャップの一次情報エビデンス

9-2. ギャップを埋めようとする既存サービス

サービス	マルチテナント	SaaS課金	LLMルーティング	発見機関
Launchpad.io	●	●	△ Bedrock連携	機関D
Replit	×	×	×	機関B
Diploi	×	×	×	機関A
Flatlogic/AppWizzy	△ ガイドのみ	△ 追加設定必要	×	機関A
saasbrella	△	●	× 限定的	機関B
Dify Enterprise	△ 管理のみ	×	△	機関C

表10：ギャップを埋めるサービス —— 完全解決は不在

10. 景品表示法リスク分析・チェックリスト

リスク要因	内容	該当軸
改正景品表示法 (2024年10月施行)	故意の不当表示に対する直罰規定（罰金100万円以下）	全軸
課徴金	売上の3%（繰返し違反は4.5%）	全軸
合理的根拠の 提出義務	消費者庁の求めに対し15日以内に根拠資料を提出 （不当表示の推定規定：第7条第2項）	全軸
PR TIMES審査	2024年実績：4,032件（1.2%）が審査で指摘。 「最上級表現の根拠不十分」が最多理由（19.4%）	軸1・4・5
FY2023措置命令	44件中13件がNo.1/最上級表現関連	全軸
プレスリリース＝ 「表示」	山田養蜂場事件（2022年）：PRが景表法の 「表示」として規制対象と認定	全軸

表11：景品表示法リスク要因一覧

10-1. プレスリリース公開前チェックリスト

<input type="checkbox"/>	「業界」の定義	比較対象（国内/海外、SMB/エンタープライズ、OSS/商用SaaS）を明文化
<input type="checkbox"/>	「統合」の定義	「単一プロダクト」か「同一クラウド内の複数サービス」を含むか明確化
<input type="checkbox"/>	調査証跡の保存	調査日・参照URL・スクリーンショット・機能比較表（最低5年間保管）
<input type="checkbox"/>	時点限定の注釈	すべての「初」「唯一」に「※20XX年X月時点、XX件を対象に自社調べ」付記
<input type="checkbox"/>	第三者調査検討	MM総研・富士キメラ総研・ITR等への委託、または認証機関の利用
<input type="checkbox"/>	反証サービスの認知	Launchpad.io・Portkey・TrueFoundry・Kongの存在を前提とした表現
<input type="checkbox"/>	Webインデックス	b-saas.aiの検索エンジンインデックス完了
<input type="checkbox"/>	弁護士レビュー	景品表示法に詳しい弁護士による最終確認

表12：プレスリリース公開前チェックリスト

11. 推奨表現一覧（7検証軸）

法的リスクを最小化しつつ訴求力を維持するために4機関の推奨を統合した表現案。

検証軸	× 回避すべき表現	● 推奨表現
軸1 三層統合	「国内外に存在しない」 「業界初の三層統合」	「国内初※、AI構築・LLMルーティング・SaaS基盤を 非エンジニア向けに統合した買い切り型PF」
軸2 LLM比較UI	「業界唯一のUI」	「主要5社のLLMを統一UIで比較・テスト・ 月間コスト試算まで行える国内初※のAI SaaS設計エディタ」
軸3 ルーテ ィング	「GUI提供が業界初」	「LLMルーティングの品質・コストバランスを 非エンジニアが 可視化しながら調整できるSaaS型として国内初※」
軸4 買い切り型	「買い切りで業界初」	「AI SaaS構築に必要なLLMルーティング・ コスト管理・運用基盤を統合した買い切り型PF」
軸5 三位一体	「他にない」 「世界初の統合」	「AI Control Plane・監査エンジン・FinOpsを 非エンジニア向け SaaS事業管理ツールとして統合した国内初※」
軸6 日本市場	「日本にはない」	「日本国内で初めて※、非エンジニアがAI搭載SaaSの 企画から運用までをワンストップで実現するPF」
軸7 本番ギ ャップ	「統合PFが存在しない」	「パイプコーディングで生成したAIアプリを セキュアなマルチ テナントSaaSへ昇格させるPFとして国内初※」

表13：推奨表現一覧 ――すべてに「※2026年2月時点、自社調べ」を付記

12. 推奨アクション・調査対象サービス一覧

12-1. 推奨アクション（優先度順）

最優先	「業界初」の使用を軸2・軸6に限定	他は「独自の」「類を見ない」に切替
最優先	反証サービスを前提とした表現修正	軸4「買い切り」・軸5「三位一体」を修正
最優先	注釈フォーマットの統一	「※2026年2月時点、XX件を対象に自社調べ」
最優先	調査証跡パッケージの整備	本PDF+4機関調査+スクリーンショット
最優先	Webインデックス完了	b-saas.aiの検索エンジンインデックス
重要	競合監視体制の構築	Dify/SaaSus/Portkey等を月次確認
重要	第三者調査機関への委託	MM総研・富士キメラ総研・ITR等
重要	「プロダクションレディ」基準の公開	RLS・データ分離・監査ログの仕様明示

表14：推奨アクション一覧

12-2. 調査対象サービス一覧（4機関統合・重複排除・50+サービス）

カテゴリ	調査対象サービス
AIアプリビルダー	Cursor, Lovable, Bolt.new, Replit, v0, Windsurf, Dify, Dify Enterprise
LLMゲートウェイ	OpenRouter, Portkey, LiteLLM, Martian, Helicone, Kong AI GW, AWS Bedrock, Azure AI GW, Cloudflare AI GW
SaaS開発基盤	SaaSus Platform, Auth0, Clerk, Stripe Billing, Supabase
LLMOps/観測	LangSmith, LangFuse, W&B; Weave, TrueFoundry, Monitly.AI

カテゴリ	調査対象サービス
マルチモデル比較	PromptFoo, TypingMind, nat.dev, Poe, Maxim AI, PromptLayer, HuggingChat, Chatbot Arena, LobeChat, LibreChat
SaaSバイラプレート	ShipFast, MakerKit, Supastarter, LaunchFast, saasbrella, AnotherWrapper, AIStarterKit, SaaS Pegasus
統合プラットフォーム	Launchpad.io, aiappbuilder.com, Flatlogic, Diploi, Mocha
日本国内	LITRON Builder, AI Worker, PKSHA AI, Kasanare, MatrixFlow, ABEJA, Allganize, AILEX, 自力でSaaS作れるくん
コスト計算	llm-prices.com, LLMPPriceCheck
FinOps/クラウド	CloudZero, Finout, Kubecost

表15：調査対象サービス一覧（4機関統合）

本資料は2026年2月19日時点の公開情報に基づく。AI市場の変化は極めて速く、有効期限は発行日から最大3ヶ月を目安とする。プレスリリース公開直前での再検証を強く推奨する。法的判断については弁護士への相談を推奨する。

—— 独立4機関統合版 ——